

＝令和元年度早川南小学校だより＝

はるき



令和2年2月26日

No.47

校長 坂野修一

苦言 1人1台パソコンについて



新型コロナウイルスの蔓延が終息する様子が見えてきません。山梨県ではまだ発生をしていますが、全国各地にひろがりを見せ、罹患者が170人を超えてきました。ここ2週間が終息に向けて重要とのことで、私が楽しみにしていたJリーグをはじめ、様々なイベントが中止や延期になっています。仕方がないですね。週末の楽しみが一つなくなってしまいましたので、当面は、日曜夜9時放送の「テセウスの船」を楽しみに、1週間を頑張りたいと思っています。

さて、昨日のサンニチの一面を飾ったのは、「目的や意義 教師ら自問」という見出しで「プログラミング教育導入」の話題でした。その絶妙のタイミングの昨日、5年生が5・6校時の時間帯に「プログラミング学習」を行いました。(Facebookでお知らせ済みです) 「Scratch(スクラッチ)」というソフトを使って多角形を描く授業を行いました。子どもたちは講師の先生(産業技術短期大学の准教授)の指導のもと、マウスを手際よく動かしてプログラミングし、図形を完成させていました。

4月からの新学習指導要領では、5・6年生の週に2時間の英語や3・4年生の週に1度の外国語活動だけでなく、前述の5年生の算数や6年生の理科などの教科でプログラミング学習をすることになります。このような取り組みを円滑に進めるため、学校では、来年度の教育課程を目下検討中のところですが、そんなところに、昨年12月、耳を疑うニュースが飛び込んできました。「政府が2023年度までに、全国の小中学校に児童生徒1人につき1台のパソコン(PC)などの情報端末を整備する方針」を決めたことです。総額事業費は4000億円を超え、経済政策の狙いも含まれているとのこと。ICTを活用した教育が推進されることは理解もしますし、まして、プログラミング教育が必修化される新学習指導要領下の学校現場において、一定数の端末が必要なことも理解をします。しかし、政府がいう、最終的には1人につき1台のPCが本当に必要かについては、大いに吟味する必要があると思うのです。

文部科学省は、1人につき1台のPCでどんなイメージの学校教育を描いているのか見えてこないのです。「子どもの学力に応じて、それぞれのPCに難易度の異なる問題を出せば、個別に最適化された学習ができる」と文科省は説明していますが、仮にそんな授業を行うのなら、先生方にかなりの指導力と事前準備が必要になってきます。子どもがPCに向き合う時間が増えれば増えるほど、クラスメイトや先生との対話、ノートに自分の手で書く時間は減る恐れがあります。PCの使い方次第では、かえって子どもたちにマイナスの影響を与えることにならないか心配でなりません。また、本校のような少人数の学校ならいいですが、全校で600人もいるような前任校では、PCをどうやって保管・管理するのでしょうか？

4000億を超えるお金は、今、学校現場に足りない先生の人件費に回してほしいものです。私たちの給料を上げてほしいと言ってるのではありません。学校現場に人を増やしてほしいのです。新しい教育を進めるのですから英語の指導をする専門の先生、プログラミング学習を進めるのですからICT支援の先生を増やしてほしいのです。新しいことが矢継ぎ早に導入され、苦勞するのは学校現場なのです。もう一度書きます。そんなばらまくお金があるのなら、「教育現場に人がほしい」と願うのが全国の学校現場です。

別件ですが、早川町内小学校は次年度の町単職員及び支援員を募集中です。「教育現場に人がほしい」…。情報をお待ちしております。



明後日28日(金)の授業参観、学年PTA、その後のPTA学校委員会につきましては、くれぐれもよろしくお願ひいたします。子どもたちの1年間の成長を見られる機会になればと思います。